



と畜検査で発見される病気

豚編 No7 肺病変

☆ どんな病気なの？

豚の肺病変は様々なものがありますが、マイコプラズマ肺炎、豚胸膜肺炎、肺膿瘍などがよくみられます。豚の肺疾患は、と畜場において肺を廃棄処分されるだけでなく、豚の増体率（体重の増加率）の低下につながり、豚の生産性に大きく影響すると言われています。

☆ マイコプラズマ肺炎

マイコプラズマ肺炎は *Mycoplasma hyopneumoniae* という微生物を原因とし、致死率は低いですが、伝播力が強く、罹患率が高いことが特徴です。京都市と畜場に搬入される4割近くの豚が罹患しています。肉眼病変では、境界明瞭な、暗赤色肉様病変がみられます。

☆ 豚胸膜肺炎

豚胸膜肺炎は *Actinobacillus pleuropneumoniae* という細菌を原因とし、繊維素性の胸膜肺炎がみられます。重度になると、胸壁や横隔膜と癒着することもあります。先ほどのマイコプラズマ肺炎、豚萎縮性鼻炎とともに豚の三大呼吸器病に数えられています。

☆ 肺膿瘍

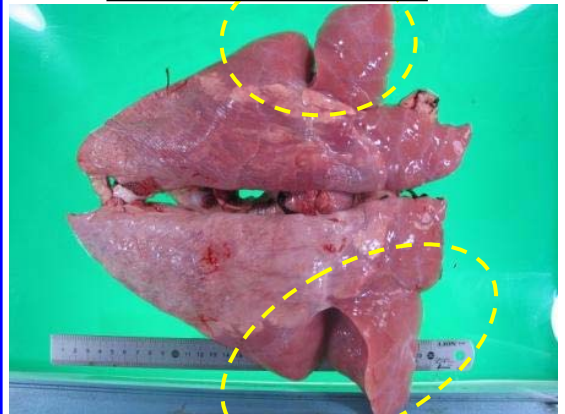
細菌性肺炎が進行し、肺組織が壊死すると、肺膿瘍を形成します。原因は様々な細菌感染であり、上記の豚胸膜肺炎から進行したものが多くと言われています。また、膿瘍が破られると、枝肉の汚染につながるため、処理の際には、衛生上の注意が必要です。

☆ 豚の肺って食べられるの？

あまり食用として出回っていませんが、「フアフア」「フワ」「プップギ」の名称で食されることもあるようです。モツ煮込みなどの具に用いられ、フワフワした食感で、あまり臭みやクセは感じられないそうです。

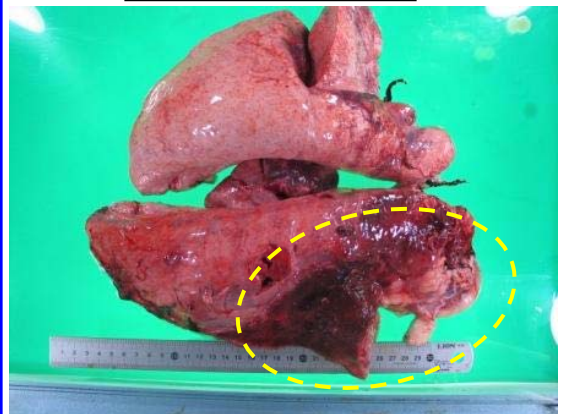
マイコプラズマ肺炎

暗赤色肉様病変を形成



豚胸膜肺炎

繊維素性病変を形成



肺膿瘍

